

大橋川周辺まちづくり検討委員会主催

平成20年7月5日大橋川改修にかかる「市民のみなさまに意見を述べていただく会」

発表者の意見と委員会・行政の考え

大橋川周辺まちづくり検討委員会

1) 「大橋川改修にかかる市民のみなさまに意見を述べていただく会」について

大橋川周辺まちづくり検討委員会は、平成18年12月に策定された「大橋川周辺まちづくり基本方針」を受けて、その理念を具体化するための「大橋川周辺まちづくり基本計画」の策定作業を進めております。

「基本計画(原案)」づくりは、大橋川周辺まちづくり検討委員会作業部会が委員会での議論を基礎に、市民のみなさまの意見を反映させながら、事業主体である国・県・市とも議論しつつ素案の作成をしてまいりました。

平成20年5月20日に開催の第9回大橋川周辺まちづくり検討委員会で、複数の委員から「市民のみなさまから意見を述べる機会をもちたいという希望が出ているので、委員会でそのような会を開催してはどうか」と提案され、委員会の同意を得ましたので、平成20年7月5日に「大橋川にかかる市民のみなさまに意見を述べていただく会」を開催いたしました。

「意見を述べていただく会」の開催につきましては、市民のみなさまにはできるだけ多くの時間をとり、十分に意見を述べていただけるようにプログラムを組むようつとめました。会場には、117名の参加があり、19名(飛び入りが5名)の方が意見発表してくださいました。

松江のまちづくりについて、日頃の思いを發表していただいたみなさまには、深い敬意を表しますとともに、会場につめかけて最後まで熱心に意見をお聞きになり、また質疑応答に参加して下さった方々に、心からお礼を申し上げます。

ここにまとめましたのは、頂戴したご意見に対する委員会の回答、および、行政の回答・対応です。

とくに確認した重要な点は、松江大橋の掛け替えを含む上流部の問題では多様な意見があるということです。そこで、この点は、「大橋川周辺まちづくり基本計画(原案)」において、まちづくりの骨格案(複数)を提示し、最終的な結論は、大橋掛け替え問題を含む上流部について集中的に検討する後継の委員会で議論を深めるという形に反映させ、提案させていただきました。みなさまからお寄せいただいたご意見は、後継の委員会で議論に反映できるように引き継ぎたいと思います。

大橋川周辺まちづくりは、松江の将来の方向を形づくる歴史的なプロジェクトであり、洪水からの安全・環境・景観・まちづくりという複数の価値を対立するものとしてとらえるのではなく、むしろ総合する画期的な事業です。「この事業は21世紀の川づくり・まちづくりの模範となる」という認識を共有することが大切です。委員会では、一貫して、このような問題意識のもとで議論を続けてきました。

全国一律の基準を当てはめるのではなく、大橋川の地形や歴史の特色をいかし、水辺と一体となったまちづくりをすすめることが委員会の総意です。

このプロジェクトを推進するにあたり、市民のみなさんが、お互いに考えを共有するとともに、深く議論しあい、提案しあって、その意見を事業に反映できるよう、参加のしくみの工夫も含めて「基本計画(原案)」に書き込みましたので、ご検討いただければ幸いです。

2) 開催プログラム

大橋川改修にかかる 市民のみなさまに意見を述べていただく会 プログラム

日 時：平成20年7月5日(土) 10:00~17:00
場 所：島根県職員会館 2階 多目的ホール

● 開 会

● あいさつ

● 対 談

〔大橋川周辺まちづくり検討委員会 桑子敬雄作業部会長・国土交通省出雲河川事務所 林正道所長〕

● 意見発表

- ① 小泉八雲も愛した松江大橋の風景を守る会(代表：組嶽博志) (団体)
テーマ：大橋川拡幅反対
- ② 徳岡 隆夫(NPO法人自然再生センター 大橋川・宍道湖部会) (個人)
テーマ：伝統石材「来待石」を利用した親水護岸
- ③ 伊藤 孝一 (個人)
テーマ：松江大橋とまちづくり
- ④ 大谷 輝子 (個人)
テーマ：松江でも弓浜農業も共に守ることを考える街づくりに

～ 昼 休 憩 ～

- ⑤ 朝酌地区検討委員会(代表：野津 照雄) (団体)
テーマ：大橋川改修事業の朝酌地区の課題について
- ⑥ 木村 昭博 (個人)
テーマ：大橋川改修工事の早期実現
- ⑦ 原田 守 (個人)
テーマ：住民意見の集約と情報公開の方法について
- ⑧ 木村 衣月子 (個人)
テーマ：段階的な治水とその検証
- ⑨ 古岡 豊利 (個人)
テーマ：大橋川改修事業を契機に都市的な発展を
- ⑩ 和多見町町内会(会長：青戸 良臣) (団体)
テーマ：大橋川の水流の再検証を
- ⑪ 宮沢 成緒 (個人)
テーマ：松江市 洪水対策の前提事項
- ⑫ 倉田 健悟 (個人)
テーマ：大橋川改修に係る意見・特に情報の公開と共有について
- ⑬ 和田守 道則 (個人)
テーマ：川の拡幅・開削(平田船川・佐陀川)で水害を防ぐ
- ⑭ 梶 成人(堅町商店街協同組合理事) (個人)
テーマ：天神川を「みんなで遊べる川」に育てるプロジェクト

● 総 括

● 閉 会

3) 会場の様子

意見発表者は事前申し込みの14名に、飛び入り参加の5名を加えた19名、一般の参加者は117名でした。

発表者の意見は、松江のまちを良くしたいという思いは同じですが、松江市の洪水対策の方法論では賛否両論、参加者は真剣に聞きっていました。

参加者	117名
発表者	19名

飛び入りの発表者5名を含む



島田委員長挨拶



発表のようす



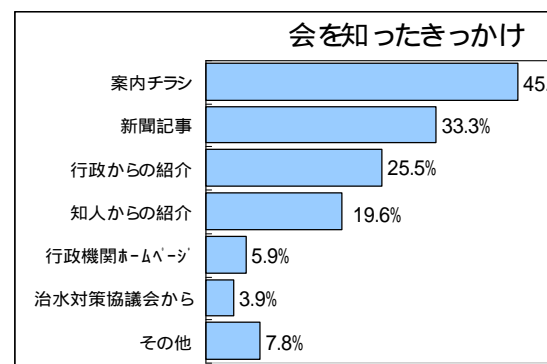
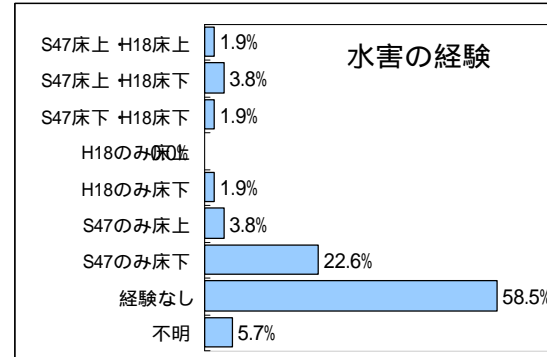
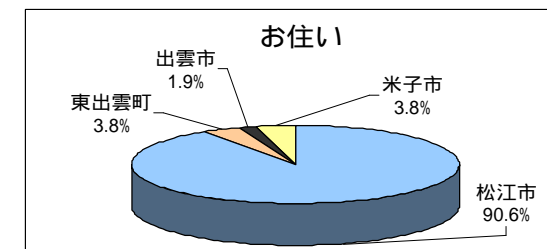
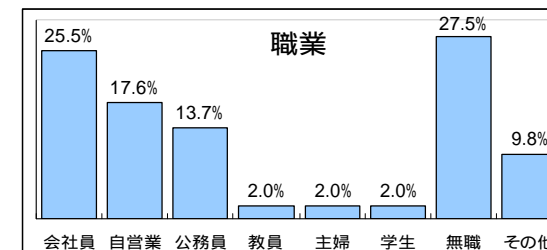
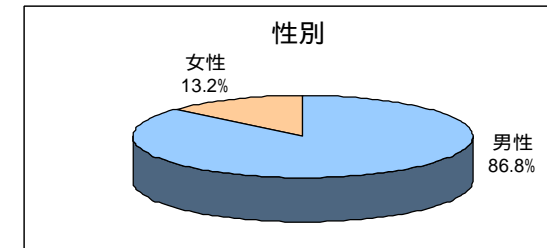
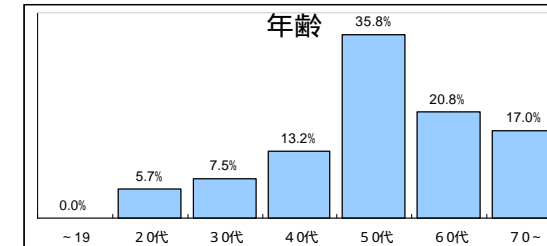
桑子作業部会長と林出雲河川事務所長との対談



会場からの質疑応答

4) 会場アンケート結果

参加された方について



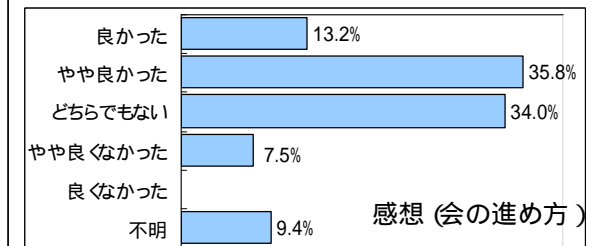
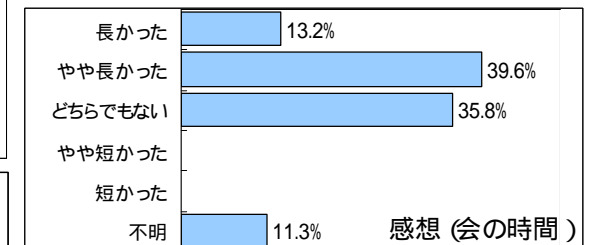
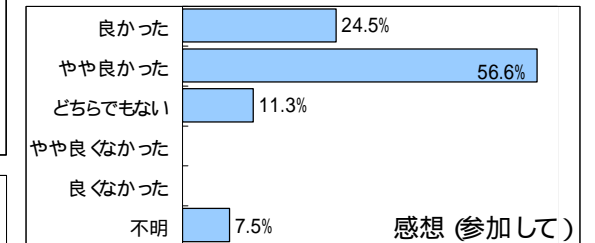
参加者117名のうち、半数近くの53名の方から回答がありました。(回答率45.3%)

約6割の方が水害の経験がなく、9割の方が松江市内にお住まいの方でした。

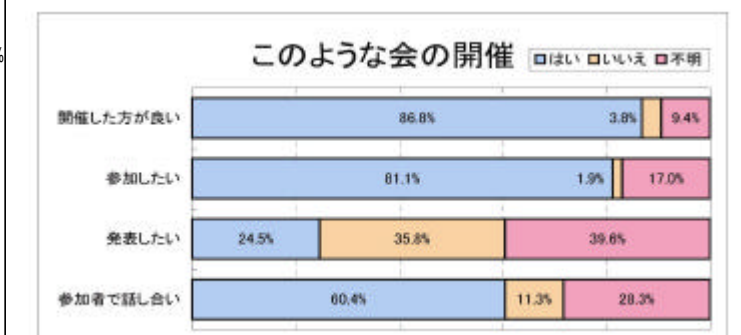
会の開催は、案内チラシや新聞記事で情報を得た方が多く、10時~17時という長時間に及び意見発表も、「長かった」「やや長かった」と答えた方は半数に止まりました。

このような会は今後も開催した方が良いという意見が8割を超えるものの、参加はしたいが、意見発表となると1/4と少なくなりました。発表会より参加者同士で話し合いという希望も6割を超えました。

会に参加した感想



このような会の開催について



発表者 (敬称略)	発表者の意見内容	大橋川周辺まちづくり検討委員会の考え	行政の考え
1. 組嶽	<p>・計画が出来た当初(54年当時)ダム、放水路、大橋川拡幅という3点セットは存在しないのではないか。</p> <p>・当時松江市議会の同意があったと行政は言っているが、市議会での決議はありません。</p> <p>・ダムと放水路ができれば、大橋川を1つ佐陀川を12本あらたに作るのと同等の効果があるため、大橋川の改修はしなくても大丈夫だと思う。</p> <p>・多摩川、淀川では全く計画の目的が立たない為、150年に1回の大雨を20年に1回の少ない雨に変えた治水計画で進めている。斐伊川は既に5000億円もの税金を使っており、全国的にみても、もう充分すぎる治水は出来ていると思う。</p> <p>・大橋川拡幅と同程度の能力の遊水地を宍道湖周辺に確保すれば良い。150年に1回のことなら遊水地の田畑の方へ補償すれば良いと思う。</p> <p>・確率で言えば150年に1回ではなく、500年に1回とかになるのではないかと思う。</p> <p>・内水問題と拡幅工事は違う事柄であると思う。</p> <p>・水位差のない所を拡幅して本当に水が流れるようになるのか、分かりやすくシミュレーション結果を出してもらいたい。国交省へ資料請求したがデータなどなかなか出して貰えない。</p> <p>・わずか20cm水位を下げるための大橋川改修はいらぬ。20cmなら土嚢をつめば済むと思う。松江大橋を壊して川を拡幅しても効果は5cm程水位が下がるだけだと思われるが、そのため10年も市街地を工事現場にして良いわけがない。</p> <p>・「松江市の為に上流・中流部の方は犠牲になったのだから松江も犠牲にならなければならぬ」と言う行政の説明は嘘だと思う。また、行政は、「住民は拡幅を前提とした意見は言えるが、拡幅の是非に対しては何も発言できない」と言った。</p> <p>・平成18年7月の洪水は天災ではなく、対策を講じてこなかった行政側の人災だと思う。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p> <p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>昭和50年の「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」では、斐伊川・神戸川を一体とし、流域全体の治水安全度を確保できるよう、斐伊川と神戸川の上流のダム建設、中流の斐伊川放水路の建設と斐伊川本川の改修、下流の大橋川改修と中海・宍道湖の湖岸堤の整備により、流域のそれぞれが治水機能を分担する内容が記載されています。</p> <p>昭和56年3月議会において、松江市長は「総論的には推進すべきであり、松江市長が率先して斐伊川・神戸川の治水事業に同意し、推進を図りたい。」旨の考えを表明し、松江市議会としても市長が同意することを決議しています。</p> <p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、上流狭窄部の模型実験結果、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。</p> <p>懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。</p> <p>内水対策については、大橋川周辺の内水対策を行っても、現状では宍道湖水位の上昇により越水・氾濫することから、地盤高の低い松江市街地では、大橋川の外水対策(越水・氾濫対策)を行いながら、内水対策を実施する必要があります。</p> <p>なお、松江市街地内水対策検討会を本年8月に設置し、今年度中を目途に総合的な内水対策の素案をまとめる予定にしています。</p> <p>宍道湖については、戦後の既往最高水位(昭和47年7月出水)であるH.P.+2.5mに抑えることが重要であり、過去の浸水被害の状況、湖岸堤の破堤実績、堤防高上げによる社会的影響の度合い、宍道湖沿川地域の地盤が低く内水処理対策が大規模になることから、宍道湖の計画高水位をH.P.+2.5mに設定しています。</p> <p>当面の浸水対策として、平成19年には、逆流防止のための排水管路へのゲート設置や、越水防止のためのパラペットによる堤防高上げを実施しています。</p>
	<p>・宍道湖・中海はラムサール条約に登録された貴重な場所であり、絶滅危惧種が200種近く確認されている。絶滅に近い動植物も守るべきではないか。</p> <p>・しじみ漁への影響は無いと言っているが、塩分濃度上昇でとんでもない被害がでて、しじみ漁ができなくなる可能性がある。諫早湾の問題のように、無責任な環境調査など鵜呑みにしてはいけないと思う。</p>	<p>環境の問題については、「大橋川改修に関する環境検討委員会」の議論を参照してください。</p>	<p>大橋川改修による水環境及び動植物・生態系に与える影響については、環境調査を実施し、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいただきながら、検討してきました。事業を進めるにあたっては、影響の程度を確認しながら進め、環境への影響が明らかになった場合は、対策を検討していきます。</p> <p>大橋川改修の工事の方法や漁業への影響軽減対策について、漁業者の皆様から意見をいただきながら、検討を行うようにしており、意見を述べていただく会以降も宍道湖漁協との意見交換会を実施しています。</p>
	<p>・国交省の計画では、観光資源や歴史、文化などを壊してもその価値は0円(計算に入れていない)であり、大橋川改修工事で失うものは、市民には大変な価値がある物だが、その価値を0円として壊そうとしている。松江市は国際文化観光都市であり、国際的な価値観で何が必要なのか何を守るべきか考えなければならない。</p>	<p>「大橋川周辺まちづくり基本方針」および「大橋川周辺まちづくり基本計画」の策定では、大橋川改修を松江市街地活性化の好機ととらえ、この機会をどのように生かせばよいかという課題に答える方向で議論を進めてきました。大橋川改修で松江が培った価値を失うことなく、これを生かすにはどうすればよいかという課題、とくに大橋周辺のまちづくりでは、当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会(仮称)」で引き続き議論することになりますので、ご意見をお寄せください。</p>	<p>大橋川改修をふまえ、大橋川沿川地域のまちづくりについて、伝統的な歴史・文化に配慮し、水辺の利活用、観光・商業振興と関連したものとなるよう「大橋川周辺まちづくり検討委員会」において検討してきました。また、大橋川沿川の景観については、「景観専門委員会」において検討を重ね、景観に配慮した堤防形状や整備イメージを作成し、「大橋川沿川の景観形成に関する整備方針」としてとりまとめたところです。</p> <p>工事の実施に当たっては、観光や周辺の商業活動へ与える影響などに十分配慮し、必要な措置を講じていく考えです。</p>
	<p>・こういった理由で、松江市にとって百害あって一利なしの事業と自分は思っており反対しています。</p>		<p>松江市街地の浸水被害を防ぐため、大橋川改修は必要であると考えています</p>
2. 徳岡	<p>・歴史を活かした治水として地域産の来待石(如泥石)の活用を提案したい。</p>	<p>「大橋川周辺まちづくり基本計画」は、ご意見の趣旨に沿ったものになっています。</p>	<p>如泥石について、この度、試験的ではありますが、消波工として大橋川コミュニティセンター裏の護岸の水際に部分的に設置しました。</p> <p>既設護岸の石材については、再利用していきたいと考えています。</p>
	<p>・水辺の利用に関して、階段状の護岸をつくることは意味があるのではないか。</p>		<p>沿川住民の皆様のご意見を聞きながら設置していきます。</p>
3. 伊藤	<p>・大橋川改修にあわせて水辺を活かした商業ゾーンと、瀬町・魚町を中心とした環境に配慮したまちなか居住ゾーンを設定し、次の世代のために商業とまちなか居住を両立させる住民主体のまちづくりが必要だと思う。</p>	<p>「大橋川周辺まちづくり基本計画」は、ご意見の趣旨に沿ったものになっています。</p>	<p>水郷松江の財産であるまちと水辺の近さを大切に、賑わいが生まれるような水辺の利活用及び白潟地区の住環境の保全を考慮し、地域の皆様とともにまちづくりを行っていきます。</p>
	<p>・松江大橋を木製にして観光資源として活用したらどうか。</p>	<p>当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会(仮称)」で検討されるよう、引き継ぎます。</p>	<p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、松江大橋に関わる地域住民の様々な意見、松江大橋を当面存置した場合の課題、架け替える場合の課題を整理し、松江大橋の取り扱いについて、専門家により議論していただきました。</p> <p>松江大橋の取り扱いについては、存置・架け替え、関連するまちづくり・景観、道路管理上などの課題が多く、様々な観点から別途詳細な検討が必要であり、今後、専門家の意見や住民の皆様とともに考えていきたいと思っております。</p> <p>懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。</p>

発 表 者 (敬 称 略)	発表者の意見内容	大橋川周辺まちづくり検討委員会の考え	行政の考え
4. 大谷	・ダム、放水路を活かして、当面様子を見てはどうか。	まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。	「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。 懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。
	・代替案を示して欲しい。	代替案については、当委員会においても「大橋川周辺まちづくり基本方針」策定過程で議論いたしました。それをご覧ください。	住民の皆様から寄せられた大橋川改修の代替案については、検討して比較を行った結果、代替案は治水計画上大橋川改修より優れた計画とは考えられません。 その結果については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。
	・大橋川を拡幅しても、中海の水位上昇は1cm程度といわれているが、これまでの洪水や高潮から、住民の実感としてこれを信じることは無理である。地球温暖化による水位上昇も懸念される中で、これ以上水位が上がれば農業を続けることが出来ないと思う。 また、海崎堤、森山堤を残したままで、大橋川の拡幅をしないで欲しい。	まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。	大橋川改修が水環境に与える影響を予測・評価するモデルは、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいただきながら確立したもので、大橋川を改修しても中海の水位は上昇しないと予測されています。 委員会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。
	・宍道湖固有の環境を守って欲しい。	環境の問題については、「大橋川に関する環境検討委員会」の議論を参照してください。	大橋川改修による水環境及び動植物・生態系に与える影響については、環境調査を実施し、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいただきながら、検討してきました。事業を進めるにあたっては、影響の程度を確認しながら進め、環境への影響が明らかになった場合は、対策を検討していきます。
5. 野津	・朝酌地区を洪水時の遊水地とみなす話があるが暴論である。 ・朝酌川のもっとも合理的な合流地点の検討が重要である。 ・水害から守るため松崎島・鷺島地区の住宅及び農地を地上げする必要があり、中州の掘削で生じる土砂を利用し、代替農地の確保や地上げをして冠水被害を解消しないといけなない。 また、松崎島に橋を架ける等、交通手段を確保して欲しい。 ・住居の移転にあたっては、地区内への移転先の確保の他、伝統と文化を尊重した生活基盤の整備が必要であり、水辺の自然を生かしたまちづくりを大事にし、産業振興を図って定住促進のための施策が必要である。	中下流の地域づくりの検討は、「大橋川周辺まちづくり基本計画」策定ののち、当該地域別に議論することになりますので、ご意見はそのような機会に検討されるよう、引き継ぎます。	現在の計画は遊水池を考慮した計画ではなく、各地区に必要な堤防高を確保するように計画しています。 大橋川、剣先川の計画及び施工方法も踏まえ、また中州の土地利用も考慮しながら、影響が少なく効率的な案を選定したいと考えています。 水害から宅地や農地を守るために地上げは有効な対策方法の1つです。 今後、大橋川本川の堤防や朝酌川の合流計画等も踏まえながら判断していきたいと考えており、代替地の検討及び土地利用の調整について協議していきます。 移転先については、移転される方の事情を聞きながら、地域の実情に配慮した対策を協議してまいります。
	・事業実施にあたっては、シジミ漁の継続と資源の維持に向けた対策及び自然環境への対策を行って欲しい。	大橋川改修では、環境への配慮を重要な条件として位置づけています。宍道湖を含めた環境保全措置については、「まちづくりと一体となった大橋川改修計画」や「河川整備計画」などで具体化することになると思います。	大橋川改修による水環境及び動植物・生態系に与える影響については、環境調査を実施し、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいただきながら、検討してきました。事業を進めるにあたっては、影響の程度を確認しながら進め、環境への影響が明らかになった場合は、対策を検討していきます。 大橋川改修の工事の方法や漁業への影響軽減対策について、漁業者の皆様から意見をいただきながら、検討を行うようにしており、意見を述べていただく会以降宍道湖漁協との意見交換会を実施しています。
6. 木村	・安全・安心な生活のため事業を強力に推進して欲しい。追子団地をモデル地区として早期実施をして欲しい。	当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会（仮称）」で検討されるよう、引き継ぎます。	治水対策の重要性、緊急性を踏まえ、各地区の状況を考慮しながら、早期着手に向けて取り組んでいきます。
	・老朽化した松江大橋は防災上危険なので架け替えをするべきである。		「大橋川改修技術検討懇談会」において、松江大橋に関わる地域住民の様々な意見、松江大橋を当面存置した場合の課題、架け替える場合の課題を整理し、松江大橋の取り扱いについて、専門家により議論していただきました。 松江大橋の取り扱いについては、存置・架け替え、関連するまちづくり・景観、道路管理上などの課題が多く、様々な観点から別途詳細な検討が必要であり、今後、専門家の意見や住民の皆様とともに考えていきたいと思います。 懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。
7. 原田	・大橋川改修も最終的には、いいものができるだろうと思うが、拡幅されると対岸との心の開きが生じる気がするので、心情的には大橋川は狭い方がよいと思う。	当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会（仮称）」で検討されるよう、引き継ぎます。	現在の状況では大橋川を整備しないと越水し松江市街地での浸水が発生するので、大橋川改修による拡幅は必要です。 大橋川改修に伴うまちづくりにより賑わいを創出し、地域の一体感が生み出せるよう住民の皆様とともに検討していきます。
	・若者は水害体験がなく、大橋川改修やまちづくりに関する情報が伝わっていないと思う。若い年代の人にも関心を持ってもらうため、テレビ媒体を活用したらどうか。また、賛成、反対の指標を取るためテレゴングをしたらどうか。	当委員会は、ホームページや情報紙「大橋川通信」の配布、委員会後の記者会見で情報提供しています。今後も分かりやすい情報提供に努めます。 意見交換については、今後「大橋川周辺まちづくり基本計画」に関する市民意見交換会を開催することになります。どなたでも参加しご意見を述べて頂ける場ですので、是非ご参加下さい。	平成18年7月に洪水被害がありましたが、今後より多くの若い世代の方に洪水の危険性と大橋川改修の必要性や内容を理解してもらい、まちづくりの議論に参加してもらうことが重要であると考えています。そのため、広報誌やホームページなどに加え、多様な情報提供に努めていきます。
8. 木村	・逆流対策など身近なところから整備する代替案を数案示し、工事費・工事期間中の影響・環境の変化などによるデメリットやコストを比較して分かりやすく説明し、市民に選ばせて欲しい。 ・平成18年7月以降の逆流対策などのように、費用がかからずできることをまずやって、その結果を検証すべきである。そういうことを重ねていくほうが現実的である。	具体的な治水対策については、「河川整備計画」策定のなかで議論することになります。	「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。 懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。
	・まちづくりは治水とセットで考えるのではなく、総合的な観点から検討すべきだと思う。	まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。	大橋川改修により安全安心なまちを築くとともに、観光・商業の振興や住環境の保全など、総合的な観点でまちづくりを検討していきます。

発表者 (敬称略)	発表者の意見内容	大橋川周辺まちづくり検討委員会の考え	行政の考え
9. 吉岡	<ul style="list-style-type: none"> ・大橋川の拡幅事業は、国家予算、誘発される民間投資を考えると、ナショナルプロジェクトと呼ぶにふさわしい公共事業であり、将来的なまちづくりを進めるうえで都市再生の大きなインパクトとなりうると思う。 ・大橋川の改修事業を契機に、周辺の都市再開発を進めることが求められると思う。治水だけでなく、背後地を含めて、民間事業も連携（誘発）し、未来志向の都市づくりを進めて欲しい。 	当委員会もそのような認識のもとで「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。	大橋川改修をふまえ、大橋川沿川地域のまちづくりについて、伝統的な歴史・文化に配慮し、水辺の利活用、観光・商業振興と関連したものとなるよう「大橋川周辺まちづくり検討委員会」において検討してきました。また、大橋川沿川の景観については、「景観専門委員会」において検討を重ね、景観に配慮した堤防形状や整備イメージを作成し、「大橋川沿川の景観形成に関する整備方針」としてとりまとめたところです。 今後も松江の発展を見据え、大橋川改修を契機としたまちづくりについて検討していきます。
10. 青戸	<ul style="list-style-type: none"> ・宍道湖には約60もの中小河川が注ぎ込んでいるが、島根半島の南側に注ぎ込む川には雨量計がほとんどないと聞いている。洪水流量の計算において、基礎的な雨量データの把握が十分とは言えないのではないかと。 ・治水の根本である洪水の流し方の基本は、下流へ大量の水を送り出すことを出来るだけ止めて、貯めるべきである。宍道湖という非常に大切な水瓶があるから、松江の水害は比較的少なく済んでいる。 大橋川の呑口部は、狭めてきた歴史があるが、それは下流部に対して洪水の被害を出来るだけ最小限にしたい止める知恵だった。ここを拡げると宍道湖の水が下流にたくさん流れ込み、五川合流部では他の川の水も流れ込むため、洪水が重なる。 よって、大橋川呑口部の拡幅はしてはけない。 ・昭和51年の計画の中で、湖岸堤の整備や内水対策の実施を約束しておきながら、それをほったらかしにし、新しい計画を立てることに一生懸命になっている。今の状況では新しい計画が何年経てば出来るのわからないので、前に約束されたことをまず実施することが一番大事ではないかと。 ・新大橋と松江大橋の側にある水位標を観測すると、松江大橋の側にある水位標の方が水位が高いのに宍道湖へ向けて水が流れている。このことを国交省の方は掴んでいるのか。大橋川の流れのメカニズムを正しく把握しないで、正しい治水事業は出来ない。 	まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。	<p>雨量観測所は、対象区域を概ね均一の降水状況を示す地域に区分して、その各地域ごとに配置することとしており、それが困難な場合は、概ね50km²ごとの地域に区分し、配置されています。</p> <p>島根半島の南側においても、この考え方を基に平田、東、秋鹿湖岸、鹿島、枕木山の雨量観測所（国交省、気象台）が設置され、蓄積されたデータを有効に使用しています。</p> <p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、上流狭窄部の模型実験結果等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。 懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。</p> <p>内水対策については、大橋川周辺の内水対策を行っても、現状では宍道湖水位の上昇により越水・氾濫することから、地盤高の低い松江市街地では、大橋川の外水対策（越水・氾濫対策）を行いながら、内水対策を実施する必要があります。 なお、松江市街地内水対策検討会を本年8月に設置し、今年度中を目途に総合的な内水対策の素案をまとめる予定にしています。</p> <p>ご指摘の水位標は、各観測地点における固有の表示であり標高表示ではないことから、誤解をされているかもしれません。 大橋川の上下流において、ドブラー式流向流速計を設置し、断面流速を観測しており、大橋川内の流れなどについて把握しています。 観測結果については、大橋川コミュニティセンターなどでリアルタイムデータを公表しているため、機会があればご確認下さい。</p>
11. 宮沢	<ul style="list-style-type: none"> ・拡幅や堤防を造っても内水対策は必要である。まず、内水対策から進めるべきではないかと。 ・知事は、改めて河川法に基づく同意を得る手続きをすべきではないかと。 ・低地に家屋等を建てる場合、あらかじめ浸水の可能性を周知していくべきではないかと。 ・昔の風情を残すため、松江大橋を架替えるのではなく補強や修復で対応すれば良いのではないかと。 ・大橋川は、手が届くほどの水の近さ・川の近さを守って欲しい。 また、大橋川の風情とコミュニティを今の形に保ちながら、大橋川及び河岸の風情、国際文化観光都市松江の地域特性を踏まえたまちづくりを行うべきである。 	<p>具体的な治水対策については、「河川整備計画」策定のなかで議論することになります。</p> <p>当委員会の後継組織である「松江大橋および周辺整備検討委員会（仮称）」で検討されるよう、引き継ぎます。</p> <p>当委員会もそのような認識のもとで「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。 懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。</p> <p>内水対策については、大橋川周辺の内水対策を行っても、現状では宍道湖水位の上昇により越水・氾濫することから、地盤高の低い松江市街地では、大橋川の外水対策（越水・氾濫対策）を行いながら、内水対策を実施する必要があります。 なお、松江市街地内水対策検討会を本年8月に設置し、今年度中を目途に総合的な内水対策の素案をまとめる予定にしています。</p> <p>河川法上は、河川管理者は河川整備計画を定めるときに知事の意見を聴くことになっており、その場合に、知事は関係する市町村長の意見を聴くこととなります。</p> <p>ハザードマップを活用するとともに、洪水時の情報提供等のソフト対策を行っていきます。</p> <p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、松江大橋に関わる地域住民の様々な意見、松江大橋を当面存置した場合の課題、架け替える場合の課題を整理し、松江大橋の取り扱いについて、専門家により議論していただきました。 松江大橋の取り扱いについては、存置・架け替え、関連するまちづくり・景観、道路管理上などの課題が多く、様々な観点から別途詳細な検討が必要であり、今後、専門家の意見や住民の皆様とともに考えていきたいと思っております。 懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティセンターまでお越し下さい。</p> <p>大橋川改修をふまえ、大橋川沿川地域のまちづくりについて、伝統的な歴史・文化に配慮し、水辺の利活用、観光・商業振興と関連したものとなるよう「大橋川周辺まちづくり検討委員会」において検討してきました。また、大橋川沿川の景観については、「景観専門委員会」において検討を重ね、景観に配慮した堤防形状や整備イメージを作成し、「大橋川沿川の景観形成に関する整備方針」としてとりまとめたところです。 大橋川の風情を損なうことなく、城下町の歴史や文化を感じさせる佇まいにとぎわいに配慮し、地域の皆様とともにまちづくりを行っていきます。</p>

発表者 (敬称略)	発表者の意見内容	大橋川周辺まちづくり検討委員会の考え	行政の考え
12. 倉田	<p>・大橋川改修について、基本的に、「大橋川の流下能力を上げる」、「汽水域の河川環境の変化を最小限にしてほしい」、「水郷の風景と松江の町並みは誇れるものであり、変化は最小限にすべきである」の3つが重要であると考えている。</p> <p>しかし、平成16年12月に示された大橋川改修の河道案は、と が両立しているとは考えられず、最善とは思えない。</p> <p>現在、その情報の公開と共有が不十分であると思っており、なぜこのような河道になっているのかなどを住民に説明されなければならない。</p> <p>・計画高水位は堤防の高さの基準となるので、大橋川の水位縦断を明らかにして欲しい。</p> <p>・ダムと放水路が整備された場合は、宍道湖水位は2.72m、さらに大橋川改修が完成した場合は、2.49mとなることから、大橋川改修により宍道湖水位は23cm下がるということだが、それを10cm - 10cm - 3cmに分けた折衷案を提案する。</p> <p>最初の10cmは流れを妨げる箇所を拡幅・掘削し、洪水を下げる努力をする。次の10cmは宍道湖の水位上昇の計算を再検討する。最後の3cmは超過洪水に対する備えを忘れないようにするというものである。</p> <p>・平成18年7月洪水のときの水位表示の看板は、具体的な観測所と水位が示されているが、昭和47年7月洪水のものは、相当水位(標高2.5m)や概ねの最高水位という表現であり、分かりにくい。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、上流狭窄部の模型実験結果、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。</p> <p>懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティーセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティーセンターまでお越し下さい。</p> <p>昭和47年7月の洪水標識は、市街地の広範囲に設置したため、大橋川の松江水位観測所の最高水位やこれ以外の市街地の主な最高浸水位(痕跡、聞き取り)等をもとに数字をまとめて、洪水相当水位(標高2.5m)と表現しています。</p> <p>なお、意見を述べていただく会以降、補足の表示を追加しました。</p>
13. 和田守	<p>・大社湾まで掘削してはどうか。</p> <p>・平田船川から日本海まで掘削してはどうか。</p> <p>・佐陀川から日本海まで拡幅してはどうか。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>住民の皆様から寄せられた大橋川改修の代替案については、検討して比較を行った結果、代替案は治水計画上大橋川改修より優れた計画とは考えられません。</p> <p>その結果については、ホームページや大橋川コミュニティーセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティーセンターまでお越し下さい。</p>
14. 梶	<p>・将来的に、水門と排水ポンプを設置して欲しい。</p> <p>・天神川の利活用のためには水質改善やヘドロ除去など環境整備が必要である。まず、天神川の浚渫をして欲しい。</p> <p>・天神川の利活用のために地元でいろいろ構想を描いている。天神川沿いの桜植樹、川床川舟で納涼、駅前から県立美術館まで川舟めぐり、十三詣の復活、水郷祭の川舟、天神川を学びの場に、盆の送り火、川辺の朝市、カヌー大会などが考えられる。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>水門については、宍道湖の洪水から市街地を守る洪水調節の目的で、大橋川改修に併せて設置いたします。また、排水ポンプについては 内水対策の一貫として検討していきます。</p> <p>現地調査を実施した結果、水の循環が部分的な河道の埋塞で妨げられている箇所が認められたため、浚渫を実施する予定です。</p> <p>天神川の環境整備については、現在行っている藻刈り取りや除草に加え、地元主体の活動を支援できるよう検討するほか、環境保全の啓発活動にも、地元と協力し取り組んでいきます。</p>
15. 美見	<p>・内水対策(市街地の雨水の排除及び大橋川からの洪水の逆流防止)は、松江市の洪水対策にとっては大前提であり、大橋川の洪水対策とは別に先ず解決しておかなければならない。</p> <p>・洪水時の大橋川の水位はゆっくり上昇するので早くから予測が出来る。また、流速も遅いので、大きな打撃も少ない。このことから、可動式の堤防が可能な状況をつくりだしている。したがって、内水対策を前提として標高150cm～200cmの間の適当な高さまでは固定した嵩上げを行う。その上に50cm～100cmの間の高さで可動式の堤防を設置すれば良いと思う。可動式堤防はヨーロッパ、アメリカでも景観保持を考慮して活用されている。</p> <p>・大橋川の拡幅・掘削の工事を行えば、宍道湖への高塩分水塊の流入が増加し、貧酸素水塊の範囲が拡大し、宍道湖のシジミその他の生息魚介類の生息環境を悪化させる事はデータ解析の結果明らかであると考えてるので、大橋川の拡幅・掘削は行わないで欲しい。</p>	<p>外水対策と内水対策は一体のものとして、大橋川の治水対策を進めるという前提のもとで、大橋川周辺まちづくりの検討を行っています。</p> <p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。ご意見は、「河川整備計画」のなかで議論することになります。</p> <p>環境の問題については、「大橋川に関する環境検討委員会」の議論を参照してください。</p>	<p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。</p> <p>懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティーセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティーセンターまでお越し下さい。</p> <p>内水対策については、大橋川周辺の内水対策を行っても、現状では宍道湖水位の上昇により越水・氾濫することから、地盤高の低い松江市街地では、大橋川の外水対策(越水・氾濫対策)を行いながら、内水対策を実施する必要があります。</p> <p>なお、松江市街地内水対策検討会を本年8月に設置し、今年度中を目途に総合的な内水対策の素案をまとめる予定にしています。</p> <p>大橋川沿川の景観については、「景観専門委員会」において検討を重ね、景観に配慮した堤防形状や整備イメージを作成し、「大橋川沿川の景観形成に関する整備方針」としてとりまとめたところです。</p> <p>堤防形状については、沿川住民の皆様の見解を聞きながら、決定していきます。</p> <p>大橋川改修による水環境及び動植物・生態系に与える影響については、環境調査を実施し、「大橋川改修に関する環境検討委員会」において、学識経験者から技術的な助言や指導をいただきながら、検討してきました。事業を進めるにあたっては、影響の程度を確認しながら進め、環境への影響が明らかになった場合は、対策を検討していきます。</p>
16. 山本	<p>・大橋川改修とは独立してまちづくりの検討をしてはどうか。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>大橋川は水郷松江の景観や風情の形成に大きな役割を担っていると考えています。</p> <p>このため、大橋川沿川のまちづくりは、大橋川改修と関連づけて検討すべきであると考えています。</p>
17. 横浜	<p>・大橋川改修の代替案として、宍道湖から直接、日本海にトンネル放水路で抜く案を提案するが、いかがか。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>住民の皆様から寄せられた大橋川改修の代替案については、検討して比較を行った結果、代替案は治水計画上大橋川改修より優れた計画とは考えられません。</p> <p>その結果については、ホームページや大橋川コミュニティーセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティーセンターまでお越し下さい。</p>
18. シロガ	<p>・目に見える水以外に地下水も宍道湖から中海まで流れているはずであり、そのシミュレーションをしてほしい。</p> <p>・松江市の交通体系(LRTなど公共交通)が橋の検討に影響してくると思う。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p> <p>ご意見は、後継の「松江大橋および周辺整備検討委員会(仮称)」で議論することになります。</p>	<p>大橋川改修事業環境調査において、大橋川の中州、松崎島、河口左岸の地下水位も調査しており、大橋川周辺地域の地下水位の変動の特徴は、「大橋川改修事業環境調査一次とりまとめ」の中で示しています。</p> <p>調査した各地点の地下水位の変動と大橋川や中海の水位変動の対応は不明瞭であり、地下水位の変動は、降雨と同調し、降雨に伴い上昇し無降雨期間に漸減する傾向があります。</p> <p>新しい公共交通体系として、LRTを含めて検討を行っています。</p>
19. 福田	<p>・大橋川改修は、3年や5年で造るような性急な進め方は好ましくないと思う。</p>	<p>まちづくりの前提となる治水対策については、「大橋川改修技術検討懇談会」での議論を参照してください。なお、当委員会では、洪水リスクの低減も重要なまちづくりの一要素として、「大橋川周辺まちづくり基本方針」、「大橋川周辺まちづくり基本計画」を策定しています。</p>	<p>「大橋川改修技術検討懇談会」において、斐伊川水系の河川の整備状況、ダム・放水路完成後の大橋川の浸水状況の推定、上流狭窄部の模型実験結果、平成18年7月洪水による松江市街地の主な浸水要因等を説明し、大橋川改修の必要性や進め方について、専門家により議論していただきました。</p> <p>懇談会の資料については、ホームページや大橋川コミュニティーセンターでご覧いただくことが出来ます。ご不明な点がありましたら、大橋川コミュニティーセンターまでお越し下さい。</p>